

# Hybrid and Conventional Endoscopic Submucosal Dissection for Early Gastric Neoplasms: A Multi-Center Randomized Controlled Trial

江崎, 充

<https://hdl.handle.net/2324/6787475>

---

出版情報 : 九州大学, 2022, 博士 (医学), 課程博士  
バージョン :

権利関係 : © 2023 by the AGA Institute. Published by Elsevier Inc. This is an open access article under the CC BY-NC-ND license.

(別紙様式2)

氏名	江崎 充
論文名	Hybrid and Conventional Endoscopic Submucosal Dissection for Early Gastric Neoplasms: A Multi-Center Randomized Controlled Trial
論文調査委員	主査 九州大学 教授 吉住 朋晴 副査 九州大学 教授 石神 康生 副査 九州大学 教授 田尻 達郎

## 論文審査の結果の要旨

内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)を技術的に容易にするために、ESDと内視鏡的粘膜切除術を組み合わせたHybrid endoscopic submucosal dissection (H-ESD)が開発された。申請者らは腫瘍径の小さな早期胃上皮性腫瘍(EGN)に対するH-ESDが従来法ESD(C-ESD)より優れているかを明らかにすることを目的に本研究を行なった。申請者らはH-ESDとC-ESDの治療成績を比較する多施設共同前向き非盲検無作為化比較試験(Hybrid-G Trial)を実施した。腫瘍長軸径が20mm以下で潰瘍合併のない分化型粘膜内病変のEGNを持つ患者を、H-ESD群とC-ESD群に無作為に割り付けた。H-ESDには多機能スネアSOUTENを使用した。主要評価項目は治療時間とした。副次的評価項目は粘膜切開時間、粘膜下層剥離時間/速度、根治性、治療に関連した偶発症などとした。申請者らは39例にH-ESD、40例にC-ESDを施行しH-ESDの治療時間はC-ESDより有意に短かく、粘膜下層剥離時間及び速度でもH-ESDが優れていることを明らかにした。他の評価項目には差を認めなかった。H-ESDはC-ESDより治療時間が短く、両群で高い根治性と安全性が確認された。この結果から、H-ESDは腫瘍径の小さいEGNの内視鏡治療における良い選択肢となりうることが証明された。

以上の成績はこの方面の研究の発展に重要な知見を加えた意義あるものと考えられる。本論文についての試験はまず論文の研究目的、方法、実験成績などについて説明を求め、各調査委員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが適切な回答を得た。なお本論文は共著者12名であるが、予備調査の結果、申請者が主導的役割を果たしていることを確認した。

よって調査委員合議の結果、試験は合格と決定し、博士(医学)の学位に値すると認める。